

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT
2016.1. VOL.29

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

名古屋市立大から世界への架け橋

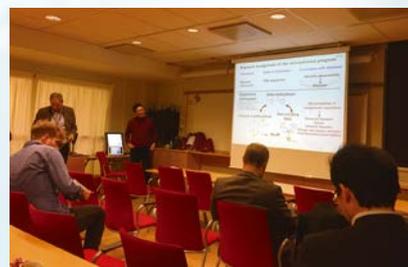
— 頭脳循環を加速する戦略的国際ネットワーク推進プログラムの採択を受けて —

日本学術振興会の主催する「頭脳循環を加速する戦略的ネットワーク推進プログラム」として、本学の「エピゲノム情報制御機構の解明と臨床応用」が昨年9月に採択されました。この事業は、国際共同研究ネットワークの核となる優れた研究者を育成し、日本の学術振興を図ることを目的として実施されるものです。具体的には、名古屋市立大学と海外トップクラスの研究施設である、コペンハーゲン大学、カロリンスカ研究所、キュリー研究所、バレンシア大学、シンガポール国立大学、およびペンシルベニア大学と世界水準の国際共同研究を通じて、双方向の人的交流を展開するものです。

エピゲノム情報は、同じゲノム情報を持つが異なる細胞表現を制御するシステムで、細胞分化、発生、神経可塑性などの個体の生命維持に重要な役割をはたしています。最近、このシステムの破綻が、“がん”や“精神疾患”などの様々な疾患の原因となることがわかってきました。本プログラムは、国際共同研究を通じてエピゲノム情報制御の本体を明らかにし、その成果を“がん治療”などへの臨床応用に結び付けていくことを目標としています。

名古屋市立大学からはエピゲノム研究で世界的な成果をあげている、医学研究科再生医学分野澤本和延教授、遺伝子制御学分野近藤豊教授、細胞生化学分野中西真教授、薬学研究科薬化学分野中川秀彦教授、システム自然科学研究科生命情報系中山潤一教授、田上英明准教授の6チームが参加します。本年2月29日—3月1日に、桜山キャンパス附属病院病棟・中央診療棟3階大ホールにおきまして、海外協力施設からの研究代表者と、日本国内のトップ研究者、および学内研究代表者によるキックオフシンポジウムを開催いたします。是非、名古屋市立大学関係者の皆様におかれましては、お時間の許す限りご参加いただきますようお願い申し上げます。

文責:細胞生化学 教授 中西 真



“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

連携病院

名鉄病院

当院の歴史は、昭和29年11月に名古屋鉄道(株)の診療所に病床を設けたことから名鉄病院と改称し、昭和31年7月に名古屋鉄道健康保険組合の直営病院として現在の名鉄栄生駅(名古屋駅の隣駅)の隣接地に125床の病棟を建設し、従業員に加え一般患者も対象として業務を開始した事から始まります。

当院の様な企業立病院は、医療法による「株式会社による病院開設の制限」を受ける前から運営されているところが多く、企業の一部署として運営される病院(トヨタ記念病院など所謂会社立病院)や健康保険組合の直営病院(例えば当院や中日病院など)またJRやNTT、日本郵政等民営化によって誕生した病院などが企業立病院に当たると言われています。

その後、2号館、3号館を増設し運営してまいりましたが、開設時に建てた1号館が老朽化したため、2年ほど前から1号館の建て替えを進め、この9月24日に新しい1号館としてオープンしたところです。現在は新1号館の開設にあわせHCU12床、地域包括ケア病棟40床を新たに開設し、一般病床(7:1)と合わせ、計373床を有する地域の中核病院の一つです。

当院の地域医療に対する方針において、救急医療の充実と急性期から亜急性期まで幅広い医療を行うという姿勢は以前から変わらず、救急に関しては、救急車の受け入れ台数が平成25年度は4440台、26年度が5291台と年々増加しており、今年度は6000台を超える勢いで2次救急医療機関としては特筆する受け入れであると自負しています。また標榜診療科21科以外にも、予防接種センター、認知症疾患医療センター、ウロギネセンター、関節鏡センター、内視鏡センター、糖尿病センター等といった専門外来も展開しており、各科各部署が連携しチーム医療として総合力と機動力のある診療を行っています。

新しい1号館のオープンに合わせて、スタッフ全員で作った「人に寄りそう命と向き合う」というキャッチフレーズを基に患者様のニーズに応え患者様の立場に立った医療を行う事を改めて誓った次第です。

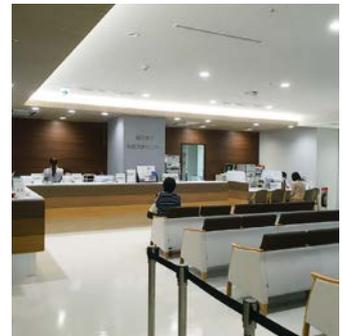
名鉄病院 病院長 細井延行



新1号館



4床室



総合受付



リハビリテーション室



5階スタッフステーション

教育

新しいMD-PhDコースの紹介

平成20年に設立された本コースが、新専門医制度にも対応、奨学金制度とともに充実し新しくなりました。以下は主な変更点です。

- 1、前期コース(学部生)は基礎系分野に所属、後期コース(卒後)は基礎系分野、臨床分野のいずれかの大学院への入学でOK。
- 2、川久保奨学金も、前期コースは5名から15名へと拡大。
- 3、新専門医制度への対応も安心。名市大臨床研修プログラムを選択し、卒後8年目までに大学院に入学し、研究を実施。

研究に少しでも興味のある学生は、必見です。

詳しくは、医学部事務または各基礎系教授に相談ください。

文責:大学院教務委員長 飛田秀樹

研究者紹介



Jyumura Yoshikazu

城村 由和(じょうむら よしかず) 細胞生化学分野(助教)

専門:分子細胞生物学

以前より、細胞老化の誘導にはがん抑制遺伝子の産物であるp53およびRbファミリーが必要不可欠であることは明らかになっていましたが、これらのがん抑制遺伝子産物がどのような分子機構を介して細胞老化を特異的に誘導しているかについてはよく分かっていませんでした。最近私は、正常なヒトの2倍体細胞は老化の過程において分裂期を回避することで4倍体のG1期細胞となり不可逆的な細胞増殖の停止(=老化)を引き起こすことを確認しました。現在はp53の新しい制御因子について研究を行っています。またこれらの研究により、老化関連疾患の病態の理解につながることを期待しています。

近年の論文:Molecular Cell 55:73-84 (2014), Cancer Research 74:3880-3889 (2014), Journal of Biological Chemistry 289:11656-11666 (2014), Nature 502:249-253 (2013), EMBO J 31:3104-3117 (2012)



Iino Etsuko

飯尾 悦子(いのお えつこ) 肝・膵臓内科(病院助教)

専門:肝炎・肝線維化

C型肝炎ウイルス(HCV)や肝線維化を中心に研究しています。自分が医者になった当時、HCVはインターフェロン単独でのウイルス排除率が5%でしたが、ペグインターフェロン+リバビリン+プロテアーゼインヒビターの登場で80%へ向上し、さらに現在では新規の内服薬の登場で治癒率100%目になってきています。一方でHCVが排除されても肝疾患が完治したわけではなく、高齢化した日本のHCV患者さんは進行した肝線維化のために発癌のリスクが高く、ウイルス排除後の線維化の評価は重要であり、現在は肝線維化を非侵襲的に評価する血清マーカーの開発への取り組みを行っています。また各施設と共同で行っている臨床研究では、HCVが治らなかった患者さんのHCVの薬剤耐性変異を検査し、患者さん一人一人の治療法の選択に貢献できるように取り組んでいます。

近年の論文:International Journal of Cancer.(Epub ahead of print) (2015), Journal of Proteome Research. 7:13:1428-1437 (2014), Human Genetics 134:279-289 (2015), Journal of Hepatology. 63:546-553 (2015), Hepatology Research. 44:1208-1216 (2014)



Inoue Koichi

井上 浩一(いのうえ こういち) 統合解剖学分野(講師)

専門:神経科学、血管生物学

イオントランスポーターやイオンチャネルが関わる神経系・血管系の病態(神経変性疾患、脳卒中、高血圧、糖尿病など)の解明を主要なテーマとして研究を行ってきました。

最近では、チャネルトランスポーターと細胞内シグナルの機能的相互作用「トランスポーター・チャネルが細胞内シグナルを介して、あるいはシグナルがそれらの分子を介して細胞及び組織に機能発現をもたらすメカニズム」について興味を持って取り組んでいます。この度解剖学の講座に参画させていただき、学生時代の不勉強を悔いることも多々ありますが、同時に新たな視点で学ぶ機会を得ることができて楽しんでいます。

近年の論文:Current Medical Chemistry 22:1248-1257 (2015), Journal of General Physiology 143:719-731 (2014), Journal of Biological Chemistry 287:20839-20850 (2012), Journal of Biological Chemistry 285:7430-7439 (2010)



Imaeda Kenro

今枝 憲郎(いまえだ けんろう) 消化器・代謝内科学分野(講師)

専門:糖尿病学合併症、糖尿病性消化管運動障害、インクレチン

臨床では糖尿病や内分泌を専門としていますが、研究では消化器・代謝内科学の名のごとく、糖尿病や内分泌疾患における消化管運動障害の機序解明をテーマにしています。大学院生時代に細胞生理学分野の先生方のご指導を受けながら糖尿病胃運動障害の研究を始めたことがきっかけとなり、その後さまざまな生理活性物質の胃運動への影響を検討してきました。現在ではインクレチンや他の内分泌ホルモンの消化管平滑筋への作用を研究しています。糖尿病としてはニッチな領域ではありますが、興味深く臨床応用への可能性が高い分野と思い、日々研究に取り組んでいます。

近年の論文:Diabetology International 4:179-185 (2013), Neuroendocrinology 97:300-308 (2013), Diabetes, Obesity and Metabolism 14:379-382 (2012), Journal of Smooth Muscle Research 45: 249-268 (2009)

新任教授のご紹介

先進急性期医療学分野 — 笹野 寛 教授

この度、平成27年9月1日付けで、新設された先進急性期医療学の教授を拝命いたしました。昭和62年に名古屋市立大学を卒業後、救急・麻酔・集中治療医学を学んできました。岡崎市民病院、岐阜県立多治見病院救命救急センターで研鑽し、名古屋市立大学病院で臨床・研究・教育に従事して参りました。

救急医学と医療安全対策は密接に結びつき、患者さん及び医療従事者の安全確保は最重要課題です。これまで行った研究は、①急激な血圧低下心停止に結びつくこともある迷走神経反射が関係する呼吸・循環連関(呼吸性洞性不整脈のガス交換効率改善機能)、②臨床診療の安全性向上を図る手技・器具の開発(超音波ガイド下カテーテル留置法の改良 感染対策酸素マスクなど)③安全に二酸化炭素レベルをコントロールするための順次ガス供給システムの開発など、臨床の中で出会った安全に関する課題が元になっています。

4年前からは臨床シミュレーションセンター長を務め、地域の医療安全の向上と、チーム医療の推進を目指すためのシミュレーション教育を推進してきました。救急医療の実践は、病院および病院前のすべてのスタッフが協力し合って成し遂げられます。地域の救急医療のみならず災害医療の向上も目標に、地域の医療安全を推進するため、救命救急センターの仲間と力を合わせるとともに、新たな救急医の育成にも尽力したいと存じます。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



笹野 寛 教授

先進急性期医療学分野 — 服部 友紀 教授

この度、平成27年9月1日付で、新設されました先進急性期医療学 教授を拝命いたしました。謹んでご挨拶申し上げます。

私は、平成6年に名古屋市立大学を卒業後、麻酔・蘇生学教室に入局し麻酔・集中治療に従事、大学院卒業後の平成16年から名古屋市立大学病院救急部に専従となり、平成21年からは救急部副部長を務めて参りました。平成25年からは藤田保健衛生大学にて救急医療に従事し、在籍2年間の治療成績調査において、特に敗血症性ショック患者の救命率では世界でトップレベルの救命率を維持しておりました。私は、他大学在籍中も「名古屋市立大学の救急」という言葉にこだわりを持ち、自分なりの救急道を突き進んできたつもりですので、再びこのような形で貢献させて頂けることは大変光栄であり、同時に大いなる責任を感じております。

救急医療は、病院前診療、災害医療、ERでの診断と初期治療、重症患者の全身管理、重症外傷診療など非常に幅広い分野を包括し、未だ正道と呼べる体制は定まっていません。私は、信頼できる仲間とともに「名市大式救急医療」を作り上げ、それを担う人材を育成し、救急医療と人材を国内外へ発信・普及していきたいと考えています。道は長く遠いですが、焦らず地道に、情熱と誇りを持って成し遂げていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



服部 友紀 教授

02 時の人 People in the news

新任教授のご紹介

先進急性期医療学分野 — 松嶋 麻子 教授

2015年9月より新設の「先進急性期医療学分野」に赴任して参りました。病院では救急科として救急搬送されてくる患者さんの診断と初期診療を行っています。

私は平成11年に名古屋市立大学を卒業しました。医学部在学中に阪神淡路大震災があり、それをきっかけに救急医学・医療を志すようになりました。当時の名市大では、まだ外傷学や災害医学を専門とする救急医学講座がなかったため、日本の救急医学発祥の地である大阪大学の救急医学講座へ卒業と同時に入局致しました。

以来16年、大阪の文化や厳しさに触れながら、救急医学・医療の面白さ、奥深さを吸収して参りました。重症外傷・熱傷、重症敗血症や中毒など、既存の疾患概念には分類されない重症病態を、救急現場の限られた時間の中で解析し治療することは16年経った今も興味は尽きることなく、面白いものです。近年は高齢者の内因性疾患が多くなり、それに応じて救命救急医療も軽症から重症まで、内因性・外因性を問わず対応するようになっていきます。

救急医療は地域によってそのニーズも実践する環境も異なるため、これからは地域に応じた柔軟な対応が求められます。名古屋の地に根ざし、患者さんと市民のための救急医療を実践しながら次世代の医療者を育てることが私達の使命です。

今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



松嶋 麻子 教授

若手期待の星★

腎・泌尿器科学分野 岡田 淳志 先生

1998年本学医学部を卒業後、腎・泌尿器科学教室に入局し、尿路結石研究を開始致しました。大学院に進学した後、「尿路結石モデルマウスの作成と結石消失現象の発見」という研究テーマで2009年に医学博士号を取得し、尿路結石の促進物質オステオポンチンの機能解析、メタボリックシンドロームによる尿路結石促進機序の解明、抗炎症型マクロファージによる尿路結石除去機能の解明などの基礎研究を行ってきました。またJAXA・NASAとの共同研究で、宇宙空間での尿路結石形成について研究し、国際宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士の結石予防法を開発しました。近年これらの成果に対し、日本医師会医学研究奨励賞を受賞する栄誉にあずかりました。

臨床では、尿路結石の診断のための低線量CTの導入、結石破砕率の向上のための体外衝撃波結石破砕術(ESWL)トレーニング法の開発、尿路結石専門外来における予防治療の取り組みを行っています。また腹腔鏡技術認定医、泌尿器ロボット支援手術プロクターとして、腎癌・腎盂尿管癌・前立腺癌に対する腹腔鏡・ロボット手術の執刀・指導を行っております。

私の夢は、「尿路結石の溶解療法の確立」です。本学の発展と患者様の健康に貢献できる新しい医療を生み出していきたいと思っております。



岡田 淳志 先生



米国交換留学生Canales先生と
結石研究グループメンバー

内視鏡医療センター 最新の光医療

内視鏡医療センターでは年間約7,000件の内視鏡検査、治療を行っています。今回は、レーザー光線を使用した最先端の内視鏡治療と苦痛無く大腸の検査が可能で大腸カプセル内視鏡についてご紹介します。

内視鏡医療センターのスタッフ集合写真



1. 光線力学療法 (Photodynamic therapy: PDT)

PDTとは、癌に集積する性質のある光感受性薬剤を患者さんに静脈投与し、数時間後に薬剤が集積した癌組織に内視鏡観察下にレーザー光線を照射し、癌細胞内に光化学反応を惹起して癌細胞を破壊する治療法です。当院も参加して行われた厚生労働省班会議の医師主導治験「放射線化学療法後の再発食道癌に対するPDT」では癌消失率80%以上という良好な成績が得られ、2015年10月に保険承認されました。これまで有効な治療法がなかった再発食道癌に対する低侵襲で有効な治療法が初めて可能になりました。当院では胆管癌に対するPDTも臨床試験で行っており、今後の開発が期待されます。



治療前の再発食道癌



PDT(内視鏡下レーザー照射中)



治療1週間後、潰瘍形成が見られる。



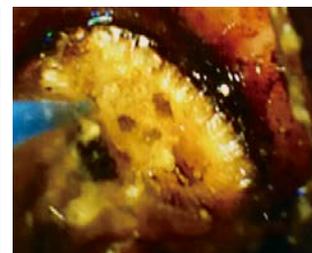
治療6週間後、瘢痕治癒

2. ホルミウムレーザーによる胆管結石破碎術

ホルミウムレーザーは、胆道内視鏡下に胆管内に挿入した直径0.5mmの細径ファイバーから照射される強力な結石破碎力を有するレーザーです。胆管組織吸収深度が非常に浅く粘膜障害が少ないため、安全に使用できます。従来、肝内結石や胆管巨大結石は治療に難渋することが多く、肝切除や胆管切除など外科的治療が施行されてきましたが、当院ではホルミウムレーザーによる経皮経肝胆道鏡下碎石術や経口胆道鏡下碎石術により低侵襲な内視鏡治療が可能で良好な治療成績を得ています。



胆管巨大結石
(経口胆道鏡下碎石術)



ホルミウムレーザー(青色)
により胆管結石を破碎

3. 大腸カプセル内視鏡

最近、日本人の大腸癌が増加しており、大腸の検査は大切になってきています。肛門から内視鏡を挿入し、大腸全体を観察する大腸内視鏡検査が一般的ですが、お腹の手術歴があり腸が癒着している方などは、検査時に痛みを伴うことがあります。

大腸カプセル内視鏡は、大きさ約3cmのカプセルを口から内服していただき、大腸を検査します。検査前の腸管洗浄薬を大腸内視鏡検査より多量に服用する必要があるなどの問題点もありますが、苦痛の少ない最先端の検査方法です。

内視鏡医療センターでは2年後の新センターオープンに向けて、高度で安全な最新医療を提供できるよう消化器、呼吸器の内科、外科の医師、内視鏡センター専属技師、看護師が協力して検査、治療に当たっております。今後とも皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。



最新の大腸用カプセル内視鏡。
31mm x 11mm、2.9g。毎秒4~35枚の画面を撮像

文責 内視鏡医療センター長 片岡洋望

学生生活

医学部5年生の学生生活を紹介します!

5年生は附属病院で1~2週間毎に各診療科をまわり、一年をかけて全診療科での臨床実習を行っています。外来、検査、回診、手術、カンファレンス等に参加し、それぞれの診療科で特色のある実習を少人数の班で行っています。

4年生までに学んだ知識を応用して疾患について議論をしたり、より臨床に則した実践的な知識を学んだり、糸結びや診察の仕方を学んだりと2年後に医師として働き始める際に必要となる知識をじっくりと学んでいます。

白衣を着て病院で実習をしていると、名古屋市立大学病院の一員として恥じないような存在でありたいという自覚も芽生え、臨床の第一線で活躍する先生方からより多くの事を学ぼうと毎日身を引き締めて実習を行っています。

臨床実習では実際の患者さんと接することで、疾患についてのみならず、医師のあり方など医師として働く上でとても貴重な事柄を学ばせていただいています。

医学部5年生代表 碓氷礼奈



マッチング報告会にて

鳴子団地での生活を紹介します!

地域と育む未来医療人「なごやかモデル」の一環として、今年の4月から6年生3人で鳴子団地で生活しています。日中は大学ですが、鳴子祭りなど地域のイベントの際には積極的に参加して、なるべく鳴子住民の方たちとコミュニケーションをとるようにしています。

また鳴子CHCセンター(コミュニティ・ヘルスケア教育研究センター)内にある暮らしの保健室では、保健師さんや早期体験学習で鳴子担当の医・薬・看の1年生と一緒に健康相談や血圧測定、骨密度測定、健康体操などを定期的に行っています。

大学から少し離れてはいますが、桜通線ですぐに大学までいけるので、実習で朝早いときなどはとても助かります。また部屋も広いので友達を呼んで勉強会をしたり一緒にご飯を食べたりしたこともあります。男3人で同じ家で暮らしていると言うとみんなに驚かれますが、毎日修学旅行のようでとても楽しいですよ。

医学部6年生 柴田隆太郎・林宏祐・正木祥太



鳴子団地前の公園にて

トルコのハジェテペ大学留学生、ムラトさんとの思い出

トルコからの留学生ムラトさんは、平成27年10月から2か月間日本に滞在し、そのうち4週間を私たちの班と実習を共にしました。気さくな彼の人柄に助けられて私たちはすぐに打ち解けて、鍋会やドライブにも行きました。英語が堪能なムラトさんに対して私たちは持てる英語力をフル活用してコミュニケーションをとりました。拙い会話の中で、英語で話す楽しさと「もっと話せたらな…」というもどかしさを強く感じました。トルコの教育制度では、学生が前線で医療処置に加わる機会が多くあるそうです。そういった他国の学生の現状を知ることで刺激を受け、いかに実習に取り組むかを考えるきっかけになったと思います。

今回のムラトさんとの出会いを大切にして、医師になって再会したときに尊敬しあえる同僚になれるよう努力したいです。

医学部5年生 斉藤大佑



ムラトさん歓迎!ちゃんこ鍋&たこ焼き



伊勢神宮で日本の文化に触れる

「2015年日本癌学会ーモヴェルネ賞(JCA-Mauverney Award 2015)」を受賞した、近藤 豊 教授にお話を伺いました

この度、第74回日本癌学会学術総会の席上で「日本癌学会ーモヴェルネ賞」を拝受いたしました。この賞は2005年に日本癌学会とDebiopharm社によって設けられた賞で、がんの基礎および応用研究領域よりそれぞれ1名の研究者に対して授与されます。今回の受賞テーマは「エピジェネティクスを標的としたがん治療の新展開」ですが、基礎研究領域での受賞は東海地区で初めてであり、選考いただきましたこと大変感謝しております。これまで苦楽を共にし、研究を支えて下さりました沢山の方々に深謝申し上げるとともに、がんの撲滅を目指して一層研究に邁進したいと思います。



日本癌学会理事長 宮園 浩平 教授(左)、Mr. Thierry B. Mauverney, Executive Vice President, Debiopharm社(右)と共に、授賞式にて

「科研費審査委員表彰」を受賞した、上島 通浩 教授にお話を伺いました

わが国の全学問分野にわたる学術研究を発展させる目的で、文部科学省及び日本学術振興会は科学研究費助成事業を行っています。今年度は、全国の研究者が提案した研究課題10万4千件のうち、約3万件が採択されました。研究計画1件あたり4人または6人、合計約5,500人の審査委員が、独創性・先駆性の観点から書面審査を行いました。有意義な審査意見を付した189名のひとりとして表彰されました。日本の研究発展に僅かながらも貢献できたことは嬉しく、自らの精進を改めて誓う機会となりました。



大成功だったベートーヴェン「第九」演奏

開学65周年記念事業の一環として管弦楽団の第60回定期演奏会でベートーヴェンの交響曲第9番「合唱付き」が、昨年12月27日に愛知県芸術劇場コンサートホールにて演奏されました。年末の第九とあって人気が高く、入場券は完売し、当日券は出ませんでした。指揮者、ソリスト、オケのメンバーとも若い演奏者による第九は、瑞々しい感性和確かな技術に裏打ちされた非常に水準の高い演奏で、暖かい観衆に見守られ、成功裏に幕を下ろすことができました。演奏後もお褒めの言葉をたくさんいただき、演奏者全員が達成感を味わうことができました。今回の企画に私は「合唱指揮」として参加しました。はじめての試みでもあり、指導者は私ひとりでパート練習に時間を割けないなどの悪条件下で、試行錯誤の連続ではありましたが、合唱団は7月からの長期にわたる練習と高い出席率の成果で、暗譜で臨むことができました。初心者が多い団としては非常に大きな成果だったと思います。個人的には色々な課題も残りましたが、もし次回があればそのときに生かしたいと考えています。皆さまのご支援に感謝申し上げます。



本番前の練習



本番の様子

公衆衛生学分野 教授 鈴木 貞夫

「医学研究科・医学部未来プラン」～人の優しさと未来を育む医学部・医学研究科～

平成26年10月に策定しました大学憲章および本学の明るい未来をグランドデザインする「名市大未来プラン」における4つのビジョンと52の項目の着実な実行と全学的な展開を図るため、このたび、医学部・医学研究科における計画を具体化させた事項・内容を、「医学研究科・医学部未来プラン」として策定しました。

「医学研究科・医学部未来プラン」掲載URL:http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/guide/policy.html#mirai_plan

ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
 ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
 などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は9月号です)

1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
 名古屋立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌：瑞 医(ずい)

発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
 TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は平成28年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☒
 我こそは
 通信員!

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
 または医学部事務局 広報担当まで